

食品安全委員会の運営について（令和 6 年 1 月～令和 6 年 3 月）

1. 食品安全委員会の開催

1 月：925 回・926 回・927 回（3 回）

（1）食品健康影響評価の要請案件（1 案件）

動物用医薬品（1 案件）	<ul style="list-style-type: none"> ・ランピースキン病生ワクチン（Bovilis Lumpyvax-E）を接種した牛に由来する食品の安全性（1/23）
--------------	---

（2）食品健康影響評価の結果通知案件（10 品目、1 案件）

農薬（5 品目 1 案件）	<ul style="list-style-type: none"> ・イミシアホス（1/16） <u>ADI を 0.0005 mg/kg 体重/日、ARfD を 0.01 mg/kg 体重と設定</u> ・カルタップ、チオシクラム及びベンスルタップ（1/16） <u>グループ ADI を 0.016 mg/kg 体重/日（カルタップ塩酸塩換算）、グループ ARfD を 0.1 mg/kg 体重（カルタップ塩酸塩換算）と設定</u> ・キノフメリン（1/23） <u>ADI を 0.03 mg/kg 体重/日、ARfD を 0.3 mg/kg 体重と設定</u> ・食品衛生法改正に伴う農薬登録基準の改正（1/23） <u>食品安全基本法第 11 条第 1 項第 1 号の食品健康影響評価を行うことが明らかに必要でないときに該当すると認められる。</u> ・スピロテトラマト（1/30） <u>ADI を 0.12 mg/kg 体重/日、ARfD を 1 mg/kg 体重と設定</u> ・ダゾメット、メタム及びメチルイソチオシアネート（1/30） <u>グループ ADI を 0.004 mg/kg 体重/日、グループ ARfD を 0.1 mg/kg 体重と設定</u>
動物用医薬品（1 品目）	<ul style="list-style-type: none"> ・フェノキシエタノールを有効成分とするすずき目魚類の薬浴剤（バイオネンネ）（1/16） <u>本製剤が適切に使用される限りにおいては、食品を通じて人の健康に影響を与える可能性は無視できる程度と考えた。</u>
遺伝子組換え食品等（3 品目）	<ul style="list-style-type: none"> ・Raα 3114 株を利用して生産されたプロテアーゼ（1/16） <u>遺伝子組換え微生物を利用して製造された添加物の安全性評価基準」（平成 16 年 3 月 25 日食品安全委員会決定）に基づき、挿入遺伝子の安全性、挿入遺伝子から産生されるタン</u>

	<p><u>パク質の毒性、アレルギー誘発性等について確認した結果、従来の添加物と比較して新たに安全性を損なうおそれのある要因は認められなかった。以上のことから、「Ra α 3114 株を利用して生産されたプロテアーゼ」は、人の健康を損なうおそれはないと判断した。</u></p> <p>・ JPAo006 株を利用して生産されたリパーゼ (1/23) <u>「遺伝子組換え微生物を利用して製造された添加物の安全性評価基準」(平成 16 年 3 月 25 日食品安全委員会決定)に基づき、挿入遺伝子の安全性、挿入遺伝子から産生されるタンパク質の毒性及びアレルギー誘発性等について確認した結果、従来の添加物と比較して新たに安全性を損なうおそれのある要因は認められなかった。以上のことから、「JPAo006 株を利用して生産されたリパーゼ」は、人の健康を損なうおそれはないと判断した。</u></p> <p>・ JPAo011 株を利用して生産されたホスホリパーゼ (1/23) <u>「遺伝子組換え微生物を利用して製造された添加物の安全性評価基準」(平成 16 年 3 月 25 日食品安全委員会決定)に基づき、挿入遺伝子の安全性、挿入遺伝子から産生されるタンパク質の毒性及びアレルギー誘発性等について確認した結果、従来の添加物と比較して新たに安全性を損なうおそれのある要因は認められなかった。以上のことから、「JPAo011 株を利用して生産されたホスホリパーゼ」は、人の健康を損なうおそれはないと判断した。</u></p>
<p>食品衛生法第 13 条第 3 項の規定に基づき、人の健康を損なうおそれのないことが明らかであるものとして厚生労働大臣が定める物質(対象外物質) (1 品目)</p>	<p>・ 発芽スイートルーピン抽出たんぱく質 (1/23) <u>農薬として想定しうる使用方法に基づき通常使用される限りにおいて、食品に残留することにより人の健康を損なうおそれのないことが明らかであると考えられる。</u></p>

(3) その他

- ・ 「食品安全委員会における調査審議方法等について」の一部改正について決定 (1/16)

2月：第928回・929回・930回・931（4回）

(1) 食品健康影響評価の要請案件（15品目）

農薬（11品目）	<ul style="list-style-type: none"> ・キノクラミン（2/13） ・フィプロニル（2/13） ・プレチラクロール（2/13） ・プロパモカルブ塩酸塩（2/13） ・エトフェンプロックス（2/27） ・フルオキサストロビン（2/27） ・ヘキサコナゾール（2/27） ・ベンチアバリカルブイソプロピル（2/27） ・ペンチオピラド（2/27） ・マンデストロビン（2/27） ・メタフルミゾン（2/27）
農薬及び動物用医薬品（1品目）	<ul style="list-style-type: none"> ・テフルベンズロン（2/27）
動物用医薬品（1品目）	<ul style="list-style-type: none"> ・モサプリドクエン酸塩を有効成分とする馬の強制経口投与剤（プロナミドE散1%）（2/27）
遺伝子組換え食品等（2品目）	<ul style="list-style-type: none"> ・<i>Saccharomyces cerevisiae</i> NS470（CBS 615.94）株を利用して生産されたα-ガラクトシダーゼ（2/13） ・JPBL015株を利用して生産されたトランスグルタミナーゼ（2/13）

(2) 食品健康影響評価の結果通知案件（10品目）

農薬（6品目）	<ul style="list-style-type: none"> ・アセフェート（2/13） <u>ADIを0.0024 mg/kg 体重/日、ARfDを0.1 mg/kg 体重と設定</u> ・メタミドホス（2/13） <u>ADIを0.00056 mg/kg 体重/日、ARfDを0.003 mg/kg 体重と設定</u> ・フルオキサストロビン（2/27） <u>ADIを0.015 mg/kg 体重/日と設定、ARfDは設定する必要がないと判断</u> ・ヘキサコナゾール（2/27） <u>ADIを0.0047 mg/kg 体重/日、ARfDを0.25 mg/kg 体重と設定</u> ・ベンチアバリカルブイソプロピル（2/27） <u>ADIを0.069 mg/kg 体重/日と設定、ARfDは設定する必要がないと判断</u>
---------	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・メタフルミゾン (2/27) <u>ADI を 0.12 mg/kg 体重/日と設定、ARfD は設定する必要がないと判断</u>
農薬及び動物用医薬品 (1品目)	<ul style="list-style-type: none"> ・テフルベンズロン (2/27) <u>ADI を 0.021 mg/kg 体重/日と設定、ARfD は設定する必要がないと判断</u>
遺伝子組換え食品等 (2品目)	<ul style="list-style-type: none"> ・チョウ目害虫抵抗性及び除草剤グルホシネート耐性トウモロコシ (DP910521) (食品) (2/20) <u>「遺伝子組換え食品(種子植物)の安全性評価基準」に基づき評価した結果、人の健康を損なうおそれはないと判断した。</u> ・チョウ目害虫抵抗性及び除草剤グルホシネート耐性トウモロコシ (DP910521) (飼料) (2/20) <u>「遺伝子組換え飼料及び飼料添加物の安全性評価の考え方」に基づき評価した結果、改めて「遺伝子組換え食品(種子植物)の安全性評価基準」に準じて安全性評価を行う必要はなく、当該飼料を摂取した家畜に由来する畜産物については、人の健康を損なうおそれはないと判断した。</u>
汚染物質 (1品目)	<ul style="list-style-type: none"> ・カドミウム (2/27) <u>耐容週間摂取量を 7 µg/kg 体重/週と設定</u>

(3) その他

- ・令和5年度食品安全委員会緊急時対応訓練結果及び令和6年度食品安全委員会緊急時対応訓練計画について決定 (2/6)
- ・食品安全委員会の運営について (令和5年10月から12月) 報告 (2/6)
- ・「薬剤耐性 (AMR) 対策アクションプランに係る食品安全委員会行動計画 2023-2027」について決定 (2/13)
- ・研究不正事案に対する措置について報告 (2/20)
- ・令和5年度食品健康影響評価技術研究課題の中間評価結果及び令和6年度食品健康影響評価技術研究新規課題の事前評価結果 (案) について決定 (2/27)
- ・令和6年度食品安全確保総合調査課題 (案) について決定 (2/27)

3月：第932回・933回、934回、935回 (4回)

(1) 食品健康影響評価の要請案件 (4品目、3案件)

かび毒 (1案件)	<ul style="list-style-type: none"> ・食品中のオクラトキシン A の規格基準の設定について (3/5)
遺伝子組換え食品等 (3品目)	<ul style="list-style-type: none"> ・ <i>Trichoderma reesei</i> RF8694 株を利用して生産されたフィターゼ (3/5) ・ PRO-No. 1 株を利用して生産された L-プロリン (3/26) ・ <i>Streptomyces mobaraensis</i> TTG-1 株を利用して生産されたトランスグルタミナーゼ (3/26)
添加物 (1品目)	<ul style="list-style-type: none"> ・二炭酸ジメチル (3/26)

<p>器具・容器包装 (2 案件)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・食品衛生法第 18 条第 1 項の規定に基づき、食品、添加物等の規格基準（昭和 34 年厚生省告示第 370 号）に定める器具及び容器包装の規格を改正することについて（食品用器具・容器包装の材質別規格、用途別規格等の改正について）（3/26） ・食品衛生法第 18 条第 1 項の規定に基づき、食品、添加物等の規格基準（昭和 34 年厚生省告示第 370 号）に定める器具及び容器包装の規格を改正することについて（食品用器具・容器包装のポジティブリストの改正について）（3/26）
---------------------------	--

(2) 食品健康影響評価の結果通知案件 (12 品目、3 案件)

<p>農薬 (3 品目)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1,3-ジクロロプロペン (3/5) <u>ADI を 0.025 mg/kg 体重/日、ARfD を 0.2 mg/kg 体重と設定</u> ・フェンプロピジン (3/19) <u>ADI を 0.016 mg/kg 体重/日、一般の集団に対する ARfD を 3.5 mg/kg 体重、妊婦又は妊娠している可能性のある女性に対する ARfD を 0.1 mg/kg 体重と設定</u> ・ホスチアゼート (3/19) <u>ADI を 0.002 mg/kg 体重/日、一般の集団に対する ARfD を 0.007 mg/kg 体重、妊婦又は妊娠している可能性のある女性に対する ARfD を 0.002 mg/kg 体重と設定</u>
<p>動物用医薬品 (2 品目)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・モサプリドクエン酸塩を有効成分とする馬の強制経口投与剤（プロナミド E 散 1%） (3/12) <u>本製剤が適切に使用される限りにおいては、食品を通じて人の健康に影響を与える可能性は無視できると考えられる。</u> ・ランピースキン病生ワクチン（Bovilis Lumpyvax-E）を接種した牛に由来する食品の安全性 (3/26) <u>本製剤が適切に使用される限りにおいて、本製剤を接種した牛に由来する食品を通じて人の健康に影響を与える可能性は無視できる程度と考えた。</u>
<p>薬剤耐性菌 (1 品目)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家畜に使用するアミノグリコシド系抗生物質 (3/12) <u>評価対象アミノグリコシドが、動物用医薬品として牛、馬、豚及び鶏に使用された結果としてハザードである大腸菌又は腸球菌が選択され、牛、馬、豚及び鶏由来の畜産食品を介して人がハザードにばく露され、人用抗菌性物質による治療効果が減弱又は喪失する可能性は否定できない。大腸菌及び腸球菌についてリスクの程度は低度であると考えた。</u> <u>薬剤耐性菌については、現時点では詳細な科学的知見や情報が必ずしも十分とはいえず、リスク評価の手法についても最新</u>

	<p><u>の知見を踏まえた見直しを随時行うことが重要と考えるため、国際機関における検討状況等を含め新たな科学的知見・情報の収集が必要である。</u></p>
<p>添加物（5品目）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <p>・メチルセルロース（3/19） <u>添加物として適切に使用される場合、安全性に懸念がないと考えられ、許容一日摂取量を特定する必要はないと判断</u></p> <p>・カルボキシメチルセルロースカルシウム、カルボキシメチルセルロースナトリウム、デンプングリコール酸ナトリウム（3/19） <u>メチルセルロースの使用基準の改正に伴う、カルボキシメチルセルロースカルシウム、カルボキシメチルセルロースナトリウム及びデンプングリコール酸ナトリウムとの併用に係る使用基準の改正であるが、メチルセルロースとこれら3品目の併用は一般的ではなく、本改正による使用への影響は実質的に無視できることから、本改正による人の健康に及ぼす影響は変わることはなく、食品安全基本法第11条第1項第2号の「人の健康に及ぼす悪影響の内容及び程度が明らかであるとき」に該当すると認められる。</u></p> <p>・二炭酸ジメチル（3/26） <u>食品安全基本法第11条第1項第2号の「人の健康に及ぼす悪影響の内容及び程度が明らかであるとき」に該当すると認められる。</u></p>
<p>器具・容器包装（2案件）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <p>・食品衛生法第18条第1項の規定に基づき、食品、添加物等の規格基準（昭和34年厚生省告示第370号）に定める器具及び容器包装の規格を改正することについて（食品用器具・容器包装の材質別規格、用途別規格等の改正について）（3/26） <u>食品安全基本法第11条第1項第2号の「人の健康に及ぼす悪影響の内容及び程度が明らかであるとき」に該当すると認められる。</u></p> <p>・食品衛生法第18条第1項の規定に基づき、食品、添加物等の規格基準（昭和34年厚生省告示第370号）に定める器具及び容器包装の規格を改正することについて（食品用器具・容器包装のポジティブリストの改正について）（3/26） <u>食品安全基本法第11条第1項第2号の「人の健康に及ぼす悪影響の内容及び程度が明らかであるとき」に該当すると認められる。</u></p>
<p>遺伝子組換え食品等（1品目）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <p>・JPAo012株を利用して生産されたフィターゼ（3/27） <u>「遺伝子組換え飼料及び飼料添加物の安全性評価の考え方」（平成16年5月6日食品安全委員会決定）に基づき又は準用し食品健康影響評価を実施した結果、組換え体由来の新たな有害物質が生成され、肉、乳、卵等の畜水産物中に移行する可能性、遺伝子組換えに由来する成分が畜水産物中で有害物質に変</u></p>

	<p>換・蓄積される可能性及び当該成分が家畜等の代謝系に作用し、新たな有害物質が産生する可能性はないと考えられることから、改めて「遺伝子組換え微生物を利用して製造された添加物の安全性評価基準」（平成 16 年 3 月 25 日食品安全委員会決定）に準じて評価を実施する必要はなく、当該飼料添加物を摂取した家畜及び養殖水産動物に由来する畜水産物については、<u>人の健康を損なうおそれはないと判断した。</u></p>
その他（1 案件）	<p>・生活衛生等関係行政の移管に伴う食品衛生法（昭和 22 年法律第 233 号）第 13 条第 1 項の規定により定めた基準等の改正（3/19）</p> <p><u>生活衛生等関係行政の機能強化のための関係法律の整備に関する法律（令和 5 年法律第 36 号）の施行に伴う規定の整理のための改正であり、食品安全基本法（平成 15 年法律第 48 号）第 11 条第 1 項第 1 号の食品健康影響評価を行うことが明らかに必要でないときに該当すると認められる。</u></p>

(3) その他

- ・企業申請品目に係る食品健康影響評価についての標準処理期間の達成状況について報告（3/5）
- ・令和 6 年度食品安全モニターの依頼について報告（3/5）
- ・令和 6 年度食品安全委員会運営計画（案）について決定（3/19）

2. 専門調査会等の運営（全 26 回）

専門調査会等名	開催回数	調査審議案件
企画等	1 回	・令和 5 年度食品安全委員会が自ら行う食品健康影響評価の案件候補の選定について、令和 6 年度食品安全委員会運営計画について、令和 5 年度食品安全委員会緊急時対応訓練結果及び令和 6 年度食品安全委員会緊急時対応訓練計画について（2/1）
添加物	1 回	・亜硫酸ナトリウム、次亜硫酸ナトリウム、二酸化硫黄、ピロ亜硫酸カリウム及びピロ亜硫酸ナトリウム（2/28）
農薬第一	2 回	・イミダクロプリド（1/29、3/11）
農薬第二	2 回	・ヨウ化メチル（1/31） ・カルベンダジム、チオファネートメチル及びベノミル（3/25）
農薬第三	2 回	・フェンメディファム（2/1、3/8）
農薬第四	2 回	・ホスチアゼート（1/22） ・フルペンチオフェノックス（3/21）
農薬第五	2 回	・エスプロカルブ（2/19） ・ジンプロピリダズ（3/18）
動物用医薬品	1 回	・ランピースキン病生ワクチン（Bovilis Lumpyvax-E）を接種した牛に由来する食品の安全性（2/2）
器具・容器包装	2 回	・食品用器具及び容器包装に既に用いられている物質（既存物質）のリスク評価の考え方（2/22、3/15）

プリオン	2回	<ul style="list-style-type: none"> ・牛肉骨粉等の鶏・豚等用飼料への利用に係る食品健康影響評価 (2/15) ・ベルギーから輸入される牛、めん羊及び山羊の肉及び内臓に係る食品健康影響評価 (3/7)
かび毒・自然毒等	1回	<ul style="list-style-type: none"> ・食品中のオクラトキシン A の規格基準の設定 (3/21)
遺伝子組換え食品等	4回	<ul style="list-style-type: none"> ・遺伝子組換え食品等の安全性評価基準改正の検討 (1/24) ・JPBL015 株を利用して生産されたトランスグルタミナーゼ (2/28) ・Saccharomyces cerevisiae NS470 (CBS 615.94) 株を利用して産生された α-ガラクトシダーゼ (2/28) ・遺伝子組換え食品等の安全性評価基準改正の検討 (3/27) ・<i>Trichoderma reesei</i> RF8694 株を利用して生産されたフィターゼ (3/27)
肥料・飼料等	2回	<ul style="list-style-type: none"> ・サルファ剤 (1/19) ・2-デアミノ-2-ヒドロキシメチオニンイソプロピルエステル (1/19) ・メチオニン (3/4) ・アナカルド酸 (3/4) ・カシューナッツ殻液 (3/4)
薬剤耐性菌に関するワーキンググループ	1回	<ul style="list-style-type: none"> ・ホスホマイシンナトリウムを有効成分とする牛の注射剤(動物用ホスミシン S (静注用))の再審査に係る薬剤耐性菌に関する食品健康影響評価 (3/1) ・「家畜等への抗菌性物質の使用により選択される薬剤耐性菌の食品健康影響に関する評価指針」の改訂の検討 (3/1)
有機フッ素化合物 (PFAS) ワーキンググループ	1回	<ul style="list-style-type: none"> ・有機フッ素化合物 (PFAS) (1/26)

3. 意見交換会の開催等

(1) 講師派遣 (全 10 回、うち委員 9 回)

開催日	開催地	講演会名	依頼者	対象者
1 / 15	栃木県	食の安全に関するリスクコミュニケーション in 県庁 「食品添加物の安全性の評価」 (川西委員)	栃木県	一般消費者、 食品関係事業者、行政職員
1 / 25	長野県	食の安全学習会「健康食品からの健康被害を防ぐために～安全を考えるポイント～」 (脇委員)	コープながの	一般消費者
2 / 1	埼玉県	食品安全・品質保証委員会 全体会 「食品安全委員会の 20 年 これまでの歩みと今後の展望」	コープデリ生活協同組合連合会	コープデリ生活協同組合連合会

2/2	大阪府	食品に関するリスクコミュニケーション 「食品添加物を考える」 (川西委員)	大阪府	一般消費者、 食品関係事 業者
2/8	東京都	北区食の安全・安心懇談会懇談会 「低温調理と食中毒」 (香西委員)	北区保健所	一般消費者、 食品関係事 業者、行政職 員
2/9	神奈川県	食のセミナー2024 「安全でおいしい肉の低温調理」 (香西委員)	横須賀市	一般消費者
2/14	東京都	令和5年度専門研修・食品衛生 「肉の低温調理について」 (香西委員)	特別区	食品衛生監 視業務に従 事する行政 職員
2/22	栃木県	食品安全講演会 「低温調理と食中毒予防対策について」 (香西委員)	宇都宮市保健 所	一般消費者、 食品関係事 業者、行政職 員
2/29	東京都	JHTC主催第42回フォローアップセミナー 「食品により媒介される微生物等に関する 食品健康影響評価指針の改定点など」 (山本委員長)	(一社)日本 HACCPトレー ニングセンタ ー	食品関係事 業者
2/29	埼玉県	食のリスクコミュニケーター研修 「食品添加物の安全性評価について」 (川西委員)	埼玉県	学校及び保 育所勤務の 調理従事者、 管理者

(2) 学会講演 (全1回)

開催日	学会名	内容
1/23～ 1/24	第40回日本毒性病理学会総会及び学 術集会 (浅野委員)	食品中化学物質の安全性評価

(4) 意見交換会等 (全4回)

開催日	内容	共催団体	対象
1/26	PFAS 評価書 (案) 記者ブリーフィング	—	報道関係 者
2/22	食品安全・オンラインセミナー 「有機フッ素化合物 (PFAS) の食品健康影響評 価書 (案)」	—	一般消費 者

2/28	食品衛生監視員研修会 資料、アイデアを活用！リスクコミュニケーション (松永委員)	滋賀県	食品衛生監視業務に従事する行政職員
3/28	食品安全セミナー 「農薬の再評価に係る食品健康影響評価」	—	一般消費者

4. 情報提供

(1) Facebook、ブログ

健康に被害を及ぼすおそれのある案件、国民の関心が高い案件についての機動的な情報提供。

■ 1月：9記事

閲覧数 (Facebook) 10,254人/月、(ブログ) 3,119人/月

投稿日	記事内容
12	【食品安全委員会 1/4～1/12 の公表事項】
17	着色料として用いられる食品添加物、二酸化チタンを解説します ～川西徹委員インタビュー～ 1/16 に開催された食品安全委員会の開催結果を報告します。
19	【食品安全委員会 1/15～1/19 の公表事項】
22	【食品安全モニター募集中。締め切り迫る！】
24	1/23 に開催された食品安全委員会の開催結果を報告します。
26	「有機フッ素化合物 (PFAS)」評価書 (案) に関する Q&A を公開しました。 【食品安全委員会 1/22～1/26 の公表事項】
31	1/30 に開催された食品安全委員会の開催結果を報告します。

■ 2月：12記事

閲覧数 (Facebook) 12,551人/月、(ブログ) 3,245人/月

投稿日	記事内容
2	【食品安全委員会 1/29～2/2 の公表事項】 ノロウイルスによる食中毒にご注意ください～その3：「つけない」「やっつける」で食中毒を防ごう～
6	食品安全・オンラインセミナー開催のお知らせ「有機フッ素化合物 (PFAS) の食品健康影響評価書 (案)」
7	2/6 に開催された食品安全委員会の開催結果を報告します。
9	【食品安全委員会 2/5～2/9 の公表事項】
14	2/13 に開催された食品安全委員会の開催結果を報告します。 【参加募集】令和5年度食品健康影響評価技術研究成果発表会を開催します (3/14(木) 13:30～web開催、申込締め切り 2/28(水) 17:00)
16	【食品安全委員会 2/12～2/16 の公表事項】

21	2/20 に開催された食品安全委員会の開催結果を報告します。
22	【食品安全委員会 2/19～2/22 の公表事項】
27	「有機フッ素化合物（PFAS）の食品健康影響評価書（案）」に係るオンラインセミナーの講演動画を公開しました。
28	2/27 に開催された食品安全委員会の開催結果を報告します。

■ 3 月：13 記事

閲覧数 (Facebook) 10,109 人/月、(ブログ) 3,305 人/月

投稿日	記事内容
1	【食品安全委員会 2/26～3/1 の公表事項】
6	3/5 に開催された食品安全委員会の開催結果を報告します。
8	食品安全セミナー「農薬の再評価に係る食品健康影響評価」開催のお知らせ 【食品安全委員会 3/4～3/8 の公表事項】
13	3/12 に開催された食品安全委員会の開催結果を報告します。
15	滋賀県との共催で、食品安全に関するリスクコミュニケーションについての意見交換会を開催しました（2月28日） 【食品安全委員会 3/11～3/15 の公表事項】
19	3/19 に開催された食品安全委員会の開催結果を報告します。
22	【食品安全委員会 3/18～3/22 の公表事項】 Food Safety - The Official Journal of the Food Safety Commission of Japan Volume 12, Issue 1 has just been published. 食品安全委員会の英文電子ジャーナル「Food Safety - The Official Journal of Food Safety Commission」Vol. 12, No. 1 を公開しました。
27	3/26 に開催された食品安全委員会の開催結果を報告します。
29	【食品安全委員会 3/25～3/29 の公表事項】

(2) X (旧 Twitter)

食中毒の防止法等、一般消費者にとって身近に関心（共感）の高いものや、タイムリーなもの、緊急性の高いものを中心に情報発信。

■ 1 月：3 記事

閲覧数 25,669 件/月、フォロワー 2,641 人

投稿日	記事内容
17	食品添加物「二酸化チタン」について食品安全委員会添加物専門調査会で議論し「現在の知見からヒトの健康に安全上の懸念を示唆する根拠はなく、食品添加物として使用する程度の量であれば、特に問題ない」という意見に集約されました。これに関して川西委員が詳しく解説します
22	【食品安全モニター募集締め切り迫る！】 食品安全モニターは、食品の安全確保に関する一定の知識を持つ方から、国に対して直接ご意見をお寄せいただく制度です。詳細は下記 URL をご覧ください。応募は 25 日(木)17 時までです。お早めにご応募ください！詳細はこちら
26	食品安全委員会は、有機フッ素化合物（PFAS）の食品健康影響評価について、ワーキンググループにおいて調査審議を行ってまいりました。今般、1 月 26 日時点の評価書（案）に基づき、Q & A を公開しました。是非ご覧ください。

■ 2月：3記事

閲覧数 65,193 件/月、フォロワー 2,692 人

投稿日	記事内容
2	ノロウイルス食中毒が数多く報告されています。ノロウイルス食中毒を防ぐポイントは「つけない」「やっつける」。「つけない」はウイルスをつけないこと。「やっつける」はしっかり加熱でウイルスを不活する（感染力を失わせる）こと。対策をしっかり行い食中毒を防ぎましょう。
6	食品安全委員会は2/22(木)14:00～、オンラインで「有機フッ素化合物(#PFAS)の食品健康影響評価書(案)」の概要について解説するセミナーを開催。現在参加者募集中！締め切りは2/19(月)16:00。
27	食品安全委員会は「有機フッ素化合物(PFAS)の食品健康影響評価書(案)」について2/22(木)にオンラインセミナーを開催しました。講演の動画を公開しましたので、是非ご覧ください。また、評価書(案)に対するご意見や情報を3月7日まで募集しております。

■ 3月：1記事

閲覧数 12,477 件/月、フォロワー 2,733 人

投稿日	記事内容
8	食品安全委員会は3/28(木)14:00～、オンラインセミナー「農薬の再評価に係る食品健康影響評価～試験データを私たちはどう判断するのか～」の参加者募集中！評価の考え方や試験成績・文献の収集、データの質の判断等を解説予定。締切3/25(月)16時。

(3) YouTube

食品の安全性に関する科学的な知識の普及啓発や、その他食品の安全に関する情報についての動画による情報発信

(1～3月の動画合計視聴回数 12,538 回、チャンネル登録者数 1,715 人(3月末時点))

公開月日	記事内容	視聴回数 (公開日～3/31)
2/27	食品安全・オンラインセミナー「有機フッ素化合物(PFAS)の食品健康影響評価書(案)」	1,846 回

食品健康影響評価の審議状況

2024.3.31現在

区分	諮問案件						自ら評価 評価終了 注5)
	要請件数 注1、2)	うち 令和5年度 分	審議中 注3)	意見 募集中 注4)	評価終了 件数	うち 令和5年 度分	
添加物	315	4	7		308	6	
栄養成分添加物	2				2		
香料	7				7		
農薬	1422	38	162	1	1259	39	
うちポジティブリスト関係	546	3	133		413	1	
うち清涼飲料水	25				25		
うち飼料中の残留農薬基準	59		16		43		
動物用医薬品	671	9	14		657	16	
うちポジティブリスト関係	140		10		130	2	
器具・容器包装	25	4	2		23	3	
汚染物質等	68				68	1	3
うち清涼飲料水	52				52		
微生物・ウイルス	22	1			22	1	2
プリオン	70	2	8	1	61	2	14
かび毒・自然毒	10	1	1		9		5
遺伝子組換え食品等	390	16	21	1	368	9	
新開発食品	91				91		3
肥料・飼料等	329	8	14	13	302	12	
うちポジティブリスト関係	142		11	10	121	1	
薬剤耐性菌	74	2	8		66	4	1
高濃度にジアシルグリセロールを含む食品に関するWG	1				1		
食品による窒息事故に関するWG	1				1		
放射性物質の食品健康影響に関するWG	2				2		
アレルゲンを含む食品に関するWG							1
その他(指定成分、アルミニウム等)	2				2		1
合計	3502	85	237	16	3249	93	30

- (注) 1 リスク管理機関から、評価要請後に取り下げ申請があった場合には、その分を要請件数から減じている。
2 評価の過程で新たに審議する必要がある案件が生じた場合には、評価終了時にその案件数を要請件数に加算している。
3 「審議中」欄には、審議継続の案件のほか、今後検討を開始するものを含む。
4 「意見募集中」欄には、意見情報の募集を締め切った後に検討中のものも含む。
5 自ら評価案件については、「評価終了」の欄では、複数省庁に答申したもの、答申が複数案件となったもの等について、その数を記入しているものもある。
6 「飼料中の残留農薬基準」欄については、ポジティブリスト制度の導入に際して、飼料中の残留基準が設定された農薬についての食品安全基本法第24条第2項に基づく意見聴取案件数である。
7 「薬剤耐性菌」欄には、肥飼料・微生物合同調査会(H18.3.6～H27.8.24)で審議したものも含む。

委員会の意見の聴取に関する案件の審議状況

(2024年3月31日現在)

参考2

I 専門調査会において検討中、または今後検討を開始するもの

接受日	要請元	食品健康影響評価の対象	
2003/12/8	農	薬剤耐性菌 飼料添加物として指定された抗菌性物質、動物用医薬品のうち、飼料添加物として指定されている抗菌性物質と同一又は同系統で薬剤耐性の交差が認められる抗菌性物質により選択される薬剤耐性菌※（水生動物に使用するスルホンアミド系合成抗菌剤、テトラサイクリン系抗生物質及びマクロライド系抗生物質。）	3
2004/10/29	農	薬剤耐性菌 チアンフェニコールを有効成分とする牛及び豚の注射剤（ネオマイゾン注射液及びバシット注射液）、アンピシリンナトリウムを有効成分とする牛の注射剤（注射用ピクシリン）	2
2005/2/14	厚	農薬 ジコホールー	1
2005/8/5	農	肥料・飼料等 スルファメトキサゾール及びトリメトプリムを有効成分とする豚の飲水添加剤（動物用シノラル液） 【再審査】 ■	1
2005/8/5	農	薬剤耐性菌 ホスホマイシナトリウムを有効成分とする牛の注射剤（動物用ホスミンS（静注用）） 【再審査】 ■	1
2006/7/18	厚	農薬 ジコホール☆	1
2006/12/19	厚	農薬 フリラゾール☆	1
2007/1/12	厚	農薬 イマゼタピルアンモニウム塩☆、ピノキサデン☆	2
2007/2/6	厚	農薬 スピロキサミン☆	1
2007/2/6	厚	動物用医薬品 アレスリン☆、クロルマジノン☆	2
2007/3/6	厚	農薬 トリチコナゾール☆	1
2007/6/5	厚	農薬 メソスルフロンメチル☆、スルフェントラゾン☆	2
2007/10/2	厚	農薬 ジクロメジン（一部☆）	2
2007/12/18	厚	農薬 クロピラリド☆、イソキサジフェンエチル☆	2
2008/3/11	厚	農薬 酸化プロピレン☆、プロディファコウム☆	2
2008/3/25	厚	農薬 イプロバリカルブ☆、スルホスルフロン☆、ピリデート☆、フッ化スルフリル☆	4
2008/7/8	厚	農薬 クロキントセットメキシル☆、クロジナホッププロバルギル☆	2
2008/7/8	厚	器具・容器包装 ビスフェノールAがヒトの健康に与える影響について※	1
2009/2/3	厚	農薬及び動物用医薬品 ホキシム☆	2
2009/2/9	厚	農薬 エチオン☆、オキシデメトンメチル☆、ジクロラン☆、ジノカップ☆、フェンプロピモルフ☆、ベナラキシル☆、ホレート☆	7
2009/3/24	厚	農薬 パラチオンメチル☆	1
2009/3/24	厚	農薬及び動物用医薬品 ジクロルボス及びナレド☆	2
2010/2/16	厚	対象外物質 アスタキサントニン☆、β-アポ-8'-カロチン酸エチルエステル☆、β-カロテン☆、酒石酸☆、トウガラシ色素☆、乳酸☆＜農薬用途もあり＞、マリーゴールド色素☆、メナジオン☆、レチノール☆	10
2010/3/1	厚	農薬 フルロキシピル☆	1
2010/5/11	厚	農薬 クロルデン☆	1
2010/8/12	厚	農薬 ハロキシホップ☆	1
2010/9/13	厚	農薬 クロマゾン☆、トリクロピル☆	2
2010/9/27	厚	農薬 酸化フェンブタズ☆	1
2010/11/12	厚	農薬 イマザリル☆、ジフルフェンゾピル☆、ジメチピン☆、テルブホス☆、トリアスルフロン☆、パラチオン☆、ピンクロゾリン☆、モノクロトホス☆	8
2010/11/15	農	農薬 テルブホス（飼料中）☆	1

I 専門調査会において検討中、または今後検討を開始するもの

接受日	要請元	食品健康影響評価の対象	
2010/12/10	厚	農薬及び動物用医薬品 クロルフェンビンホス☆、メトプレン☆	4
2010/12/10	農	農薬 メトプレン（飼料中）☆	1
2011/1/24	厚	農薬 ペンコナゾール☆	1
2011/2/10	厚	農薬 エンドスルファン☆、クロリムロンエチル☆、クロルタールジメチル☆	3
2011/3/25	厚	農薬 エタメツルフロンメチル☆、ジスルホトン☆、プロモキシニル☆	3
2011/4/19	厚	添加物 カルミン-	1
2011/4/25	農	農薬 プロモキシニル（飼料中）☆	1
2011/9/22	厚	農薬 EPTC☆、アミノピラリド☆、イオドスルフロンメチル☆、クロルスルフロン☆、シクロキシジム☆、ジフェンゾコート☆、テクナゼン☆、ニコスルフロン☆、マレイン酸ヒドラジド☆、メトスルフロンメチル☆	10
2011/9/22	厚	農薬 2,4-DB☆	1
2011/10/11	厚	農薬 ジクロホップメチル☆、トリベヌロンメチル☆、ピクロラム☆、フェノキサプロップエチル☆、ブタフェナシル☆、フルオメツロン☆、アトラジン☆	7
2011/10/11	農	農薬 アトラジン（飼料中）☆	1
2011/11/18	厚	農薬 トラルコキシジム☆、フェノキシカルブ☆、プロスルフロン☆	3
2011/12/19	厚	プリオン 牛海綿状脳症（BSE）対策の見直し（オランダ）②&※	1
2012/1/23	厚	農薬及び動物用医薬品 シハロトリン☆	2
2012/1/23	農	農薬 エチオン（飼料中）☆、ホレート（飼料中）☆、シハロトリン（飼料中）☆、ジクローボス及びナレド（飼料中）☆	4
2012/3/26	厚	農薬 リムスルフロン☆	1
2012/5/21	厚	農薬 4-クロルフェノキシ酢酸☆、トリデモルフ☆、フラムプロップメチル☆	3
2012/7/18	厚	農薬 テフルトリン☆	1
2012/8/21	厚	農薬 フサライド☆、フルスルファミド☆	2
2012/9/18	厚	農薬 メコプロップ☆	1
2013/1/22	農	農薬 クロルピリホスメチル（飼料中）☆、クロルフェンビンホス（飼料中）☆、シマジン（飼料中）☆、パラチオン（飼料中）☆	4
2013/1/30	厚	農薬 クロルピリホスメチル☆、シマジン☆	2
2013/3/12	厚	農薬 アイオキシニル☆、エテホン☆、オキサミル☆、カルフェントラゾンエチル☆、クロリダゾン☆、ターバシル☆、ピリミホスメチル☆、フルシトリネート☆、ホルクロルフェニユロン☆、メタミトロン☆、メチダチオン☆、レナシル☆	12
2013/3/13	農	農薬 ピリミホスメチル（飼料中）☆	1
2013/4/2	厚	プリオン ポーランドから輸入される牛肉及び牛の内臓について※	1
2013/6/10	農	農薬 ギーBHC（飼料中）☆、ジメトエート（飼料中）☆、メチダチオン（飼料中）☆	3
2013/6/12	厚	農薬 アラニカルブ☆、イマザキン☆、ジウロン☆、シプロコナゾール☆、ジメトエート☆、フルキンコナゾール☆	6
2013/8/20	厚	農薬 DBEDC■<一部☆>、ノニルフェノールスルホン酸銅■<一部☆>、イマザモックスアンモニウム塩☆、ヒメキサゾール☆、メトリブジン☆、リニュロン☆	8
2013/8/20	厚	肥料・飼料等及び農薬 ジヒドロストレプトマイシン及びストレプトマイシン☆	2
2014/9/9	厚	農薬 ピラゾリネート☆	1
2015/5/14	厚	プリオン スイス及びリヒテンシュタインから輸入される牛肉及び牛の内臓※	2
2015/9/30	厚	プリオン イタリアから輸入される牛肉及び牛の内臓※	1
2015/12/18	厚	プリオン 牛海綿状脳症（BSE）国内対策の見直し&※	1
2017/4/19	厚	農薬 ピレトリン☆	1

I 専門調査会において検討中、または今後検討を開始するもの

接受日	要請元	食品健康影響評価の対象	
2017/8/3	厚	プリオン 英国から輸入される牛、めん羊及び山羊の肉並びに内臓※	1
2017/11/30	厚	遺伝子組換え食品等 ミラクリン発現トマトTU-IP105B-1(食品) ■	1
2017/12/20	農	遺伝子組換え食品等 ミラクリン発現トマトTU-IP105B-1(飼料) ■	1
2018/7/4	農	薬剤耐性菌 バルネムリン塩酸塩を有効成分とする豚の飼料添加剤(エコノアプレミックス1%及びエコノアプレミックス10%) ※再審査 ■	1
2019/2/27	農	薬剤耐性菌 アモキシシリン水和物を有効成分とする牛及び豚の注射剤(アモスタックLA注) ※再審査 ■	1
2019/10/24	厚	遺伝子組換え食品等 チョウ目害虫抵抗性サトウキビ CTC175-A ■	1
2020/2/13	厚	肥料・飼料等 ジニトルミド☆	1
2020/3/17	厚	動物用医薬品 ジブチルサクシネート☆、ノルジエストメット☆	2
2021/5/14	農	遺伝子組換え食品等 DHA産生及び除草剤グルホシネート耐性キャノーラ(NS-B50027-4)(飼料) ■	1
2021/5/17	厚	遺伝子組換え食品等 DHA産生及び除草剤グルホシネート耐性キャノーラ(NS-B50027-4)(食品) ■	1
2022/3/15	農	遺伝子組換え食品等 コウチュウ目害虫抵抗性及び除草剤グルホシネート耐性トウモロコシ(DP915635)(飼料) ■	1
2022/3/16	厚	遺伝子組換え食品等 コウチュウ目害虫抵抗性及び除草剤グルホシネート耐性トウモロコシ(DP915635)(食品) ■	1
2022/3/23	厚	農薬 ヨウ化メチル ■	1
2022/4/21	厚	農薬及び動物用医薬品 シペルメトリン ■	1
2022/8/23	厚	添加物 亜硫酸ナトリウム ■、次亜硫酸ナトリウム ■、二酸化硫黄 ■、ピロ亜硫酸カリウム ■、ピロ亜硫酸ナトリウム ■	5
2022/9/27	厚	遺伝子組換え食品等 JPAo010株を利用して生産されたポリフェノールオキシダーゼ ■	1
2022/12/1	厚	添加物 亜塩素酸水 ■	1
2022/12/14	厚	農薬 チオジカルブ及びメソミル☆	1
2022/12/14	厚	農薬及び動物用医薬品 イミダクロプリド ■、クロチアニジン ■、ピペロニルブトキシド☆	6
2022/12/14	厚	動物用医薬品 プラレトリン ■	1
2022/12/14	農	農薬 アセタミプリド※、イミダクロプリド※、クロチアニジン※、ジノテフラン※、チアメトキサム※	5
2022/12/14	農	動物用医薬品 クロチアニジンとd・d-T80-プラレトリンを有効成分とする畜舎噴霧剤(ヌーベルショット、トリプルアクセル) ■	1
2023/1/10	厚	遺伝子組換え食品等 Trichoderma reesei RF6197株を使用して生産されたペクチナーゼ ■、Trichoderma reesei RF6201株を使用して生産されたペクチナーゼ ■	2
2023/1/25	農	農薬 グリホサート※	1
2023/3/22	農	農薬 フェンメディファム※、フサライド※	2
2023/6/28	厚	プリオン ベルギーから輸入される牛、めん羊及び山羊の肉及び内臓について※	1
2023/7/3	厚	遺伝子組換え食品等 チョウ目害虫抵抗性及び除草剤グリホサート耐性トウモロコシ(DAS1131) ■	1
2023/7/4	農	遺伝子組換え食品等 チョウ目害虫抵抗性及び除草剤グリホサート耐性トウモロコシ(DAS1131) ■、JPBL011株を利用して生産されたα-アミラーゼ ■	2
2023/8/30	厚	肥料・飼料等 アナカルド酸 ■、カシューナッツ殻液 ■	2
2023/8/31	厚	農薬 ジアフェンチウロン(一部☆)	1
2023/10/3	厚	遺伝子組換え食品等 コウチュウ目害虫抵抗性トウモロコシMON95275系統 ■	1
2023/10/3	農	遺伝子組換え食品等 コウチュウ目害虫抵抗性トウモロコシMON95275系統 ■	1

I 専門調査会において検討中、または今後検討を開始するもの

接受日	要請元	食品健康影響評価の対象	
2023/10/25	農	農薬 フェリムゾン※、プロスルホカルブ※、ペントキサゾン※	3
2023/11/21	厚	農薬 カルベンダジム、チオファネート、チオファネートメチル及びベノミル■〈一部☆〉、ジンプロピリダズ■、フルベンチオフェノックス■	3
2023/11/21	農	農薬 カルベンダジム、チオファネート、チオファネートメチル及びベノミル■〈一部☆〉、ピペロニルブトキシド☆	2
2023/12/5	農	遺伝子組換え食品等 ML18456株を利用して生産したカンタキサンチン■	1
2024/2/7	農	農薬 キノクラミン※、フィプロニル※、プレチラクロール※、プロパモカルブ塩酸塩※	4
2024/2/7	厚	遺伝子組換え食品等 <i>Saccharomyces cerevisiae</i> NS470 (CBS 615.94) 株を利用して産生された α -ガラクトシダーゼ■、JPBL015株を利用して生産されたトランスグルタミナーゼ■	2
2024/2/21	厚	農薬 エトフェンプロックス■、ペンチオピラド■、マンデストロビン■	3
2024/2/27	農	遺伝子組換え食品等 <i>Trichoderma reesei</i> RF8694株を利用して生産されたフィターゼ■	1
2024/2/28	厚	かび毒・自然毒 食品中のオクラトキシンAの規格基準の設定についてー	1
2024/3/19	厚	遺伝子組換え食品等 PRO-No.1株を利用して生産されたL-プロリン■、遺伝子組換え食品等 <i>Streptomyces mobaraensis</i> TTG-1株を利用して生産されたトランスグルタミナーゼ■	2
2024/3/19	厚	器具・容器包装 食品衛生法第18条第1項の規定に基づき、食品、添加物等の規格基準（昭和34年厚生省告示第370号）に定める器具及び容器包装の規格を改正することについて（食品用器具・容器包装の材質別規格、用途別規格等の改正について）ー	1

237

(注)

ー：食品安全基本法第24条第1項案件（企業申請を含まない。）

■：食品安全基本法第24条第1項に基づく意見聴取案件かつ企業申請案件（平成22年1月1日以降委員会において説明したもののみ）

◎：食品安全基本法第23条第1項第2号による自ら評価案件

☆：ポジティブリスト制度に伴う食品安全基本法第24条第2項に基づく意見聴取案件

※：食品安全基本法第24条第3項に基づく意見聴取案件

II 専門調査会における審議結果（案）について意見募集を行っているもの

募集期間	対象となる審議結果（案）	
2024/2/7～2024/3/7	PFAS 有機フッ素化合物（PFAS）◎	1
2024/2/13～2024/3/14	肥料・飼料等 スルファメトキサゾール■、スルファメトキサゾール☆、スルフイソゾール☆、スルファジメトキシ☆、スルファモノメトキシ☆、スルファジミジン☆、スルファクロルピリダジン☆、スルファジアジン☆、スルファドキシ☆、スルファモイルダブソン☆、スルファキノキサリン☆	11
2024/2/28～2024/3/28	遺伝子組換え食品等 LEU-No. 4株を利用して生産されたL-ロイシン■	1
2024/3/21～2024/4/19	肥料・飼料等 2-デアミノ-2-ヒドロキシメチオニンイソプロピルエステル■、2-デアミノ-2-ヒドロキシメチオニンイソプロピルエステルを飼料添加物として使用した家畜に由来する食品の安全性※	2
2024/3/27～2024/4/25	農薬 エスプロカルブ※	1
2024/3/27～2024/4/25	プリオン 牛肉骨粉等の鶏・豚等飼料への利用再開についてー	1

17

（注）

ー：食品安全基本法第24条第1項案件（企業申請を含まない。）

☆：ポジティブリスト制度に伴う食品安全基本法第24条第2項に基づく意見聴取案件

※：食品安全基本法第24条第3項に基づく意見聴取案件

■：食品安全基本法第24条第1項に基づく意見聴取案件かつ企業申請案件（平成22年1月1日以降委員会において説明したもののみ）

◎：食品安全基本法第23条第1項第2号による自ら評価案件

Ⅲ 食品安全委員会において既に食品健康影響評価を終了したもの（令和5年度）

通知日	通知先	食品健康影響評価の対象	
2023/4/12	厚	肥料・飼料等 エトパベート☆	1
2023/4/12	厚	遺伝子組換え食品等 DIDK-0176株を利用して生産されたホスホリパーゼ■、ROM株を利用して生産されたα-アミラーゼ■	2
2023/4/12	厚	農薬 ジクロロメゾチアズ■	1
2023/5/9	厚	農薬 1,4-ジメチルナフタレン■、ジメスルファゼット■	2
2023/5/17	農	肥料・飼料等 マルボフロキサシンを有効成分とする牛の注射剤（フォーシル）■	1
2023/5/17	厚	農薬 1-メチルシクロプロペン■、クロルフルアズロン■、テブフェンピラド■	3
2023/5/19	農	肥料・飼料等 普通肥料公定規格改正_菌体りん酸肥料-	1
2023/5/31	厚	農薬及び飼料添加物 シンナムアルデヒド（ケイ皮アルデヒド）■	2
2023/5/31	厚	遺伝子組換え食品等 Geobacillus stearothermophilus TP7株を使用して生産されたプロテアーゼ■	1
2023/5/31	厚	肥料・飼料等及び薬剤耐性菌 マルボフロキサシンを有効成分とする牛及び豚の注射剤（マルボシル2%、10%）■	2
2023/6/7	厚	添加物 ポリビニルアルコール■	1
2023/6/7	厚	器具・容器包装 食品衛生法第18条第1項の規定に基づき、食品、添加物等の規格基準（昭和34年厚生省告示第370号）に定める器具及び容器包装の規格を改正することについて、食品衛生法第52条第1項の規定に基づき、器具又は容器包装を製造する営業の施設の衛生的な管理その他公衆衛生上必要な措置に関する基準を改正することについて-	2
2023/6/8	農	肥料・飼料等 遺伝子組換え技術によって得られたKomagataella phaffii を利用して生産されたフィターゼ■	1
2023/7/5	農	肥料・飼料等 ムラミダーゼ■	1
2023/7/6	厚	農薬及び動物用医薬品 エマメクチン安息香酸塩☆	2
2023/7/12	厚	動物用医薬品 ヒドロコルチゾン☆	1
2023/7/12	厚	農薬 プロチオホス■	1
2023/7/20	厚	農薬 フロニカミド■、ポリオキシシンD垂鉛塩■	2
2023/7/25	農	薬剤耐性菌 マルボフロキサシンを有効成分とする豚の注射剤（フォーシルS）■	1
2023/8/1	農	薬剤耐性菌 ツラスロマイシン及びケトプロフェンを有効成分とする牛の注射剤（ドラクシンKP）■	1
2023/8/1	厚	農薬 イソピラザム■、プロシミドン■	2
2023/8/10	農	動物用医薬品 牛伝染性鼻気管炎・牛ウイルス性下痢2価・牛パラインフルエンザ・牛RSウイルス感染症・牛アデノウイルス感染症混合生ワクチン（“京都微研。カーフウィン6）■	1
2023/9/8	厚	動物用医薬品 モサブリドー	1
2023/9/15	厚	農薬及び動物用医薬品 シフルトリナー	2
2023/9/20	農	動物用医薬品 アセトアミノフェンを有効成分とする豚の経口投与剤（アレンジャー30）■、アセトアミノフェンを有効成分とする豚の経口投与剤（ピレキシシン10%）■	2
2023/10/4	厚	農薬及び動物用医薬品 プロフラニリド■	2
2023/10/11	厚	農薬 ププロフェジン■	1
2023/10/18	厚	肥料・飼料等 3-ニトロオキシプロパノール■、タイロシン■	2

Ⅲ 食品安全委員会において既に食品健康影響評価を終了したもの（令和5年度）

通知日	通知先	食品健康影響評価の対象	
2023/10/18	農	肥料・飼料等 3-ニトロオキシプロパノールを有効成分とする飼料添加物■、マルボフロキサシンを有効成分とする豚の注射剤(フォーシルS)■	2
2023/11/1	農	農薬 チオベンカルブ※、チフルザミド※、ブタクロール※、イソチアニル※	4
2023/11/1	農	動物用医薬品及び肥料・飼料等 ツラスロマイシン及びケトプロフェンを有効成分とする牛の注射剤(ドラクシンKP)■	2
2023/11/7	厚	プリオン ドイツから輸入される牛、めん羊及び山羊の肉及び内臓※	1
2023/11/16	厚	農薬及び動物用医薬品 フェニトロチオン■	1
2023/11/16	農	動物用医薬品 動物用ワクチンの添加剤として使用する成分(植物性ペプトン、鶏卵の卵黄成分)※	2
2023/11/21	厚	プリオン スウェーデンから輸入される牛肉及び牛の内臓※	1
2023/11/29	農	動物用医薬品 プロフラニドを有効成分とする鶏舎噴霧剤(リブケアFL)■	1
2023/11/29	厚	農薬 イソフェタミド■、フルキサメタミド■	2
2023/12/26	厚	動物用医薬品 フェノキシエタノール■	1
2023/12/26	厚	微生物・ウイルス 乳及び乳製品の成分規格等に関する省令(昭和26年厚生省令第52号)の改正についてー	1
2024/1/17	厚	遺伝子組換え食品等 Raα3114株を利用して生産されたプロテアーゼ■	1
2024/1/17	厚	農薬 イミシアホス■、カルタップ、チオシクラム及びベンスルタップ■	2
2024/1/17	農	動物用医薬品 フェノキシエタノールを有効成分とするすずき目魚類の薬浴剤(製剤名:バイオネンネ)■	1
2024/1/25	厚	農薬 発芽スイートルーピン抽出たんぱく質■、キノフメリン■	2
2024/1/25	厚	遺伝子組換え食品等 JPAo011株を利用して生産されたホスホリパーゼ■、JPAo006株を利用して生産されたリパーゼ■	2
2024/1/31	厚	農薬 スピロテトラマト■、ダゾメット、メタム及びメチルイソチオシアネート■	2
2024/2/14	厚	農薬 アセフェート■、メタミドホス■	2
2024/2/20	厚	遺伝子組換え食品等 チョウ目害虫抵抗性及び除草剤グルホシネート耐性トウモロコシ(食品)■	1
2024/2/20	農	遺伝子組換え食品等 チョウ目害虫抵抗性及び除草剤グルホシネート耐性トウモロコシ(飼料)■	1
2024/2/29	厚	汚染物質 カドミウムー	1
2024/2/29	厚	農薬 フルオキサストロビン■、ヘキサコナゾール■、ベンチアバリカルブイソプロピル■、メタフルミゾン■	4
2024/2/29	厚	農薬及び動物用医薬品 テフルベンズロン■	1
2024/3/7	農	農薬 1,3-ジクロロプロペン※	1
2024/3/13	農	薬剤耐性菌 アミノグリコシド系抗生物質が動物用医薬品として家畜に投与された場合に選択される薬剤耐性菌※	1
2024/3/13	農	動物用医薬品 モサプリドクエン酸塩を有効成分とする馬の強制経口投与剤(プロナミドE散1%)■	1
2024/3/21	厚	農薬 ホスチアゼート■、フェンプロピジン■	2
2024/3/21	厚	添加物 メチルセルロース■、カルボキシメチルセルロースカルシウムー、カルボキシメチルセルロースナトリウムー、デンプングリコール酸ナトリウムー	4

Ⅲ 食品安全委員会において既に食品健康影響評価を終了したもの（令和5年度）

通知日	通知先	食品健康影響評価の対象	
2024/3/26	農	動物用医薬品 ランピースキン病生ワクチン（Bovilis Lumpyvax-E）を接種した牛に由来する食品の安全性※	1
2024/3/27	農	遺伝子組換え食品等 JPAo012株からを利用して生産されたフィターゼー	1
2024/3/28	厚	添加物 二炭酸ジメチルー	1
2024/3/29	厚	器具・容器包装 食品衛生法第18条第1項の規定に基づき、食品、添加物等の規格基準（昭和34年厚生省告示第370号）に定める器具及び容器包装の規格を改正することについて（食品用器具・容器包装のポジティブリストの改正について）ー	1

93

（注）

ー：食品安全基本法第24条第1項案件（企業申請を含まない。）

☆：ポジティブリスト制度に伴う食品安全基本法第24条第2項に基づく意見聴取案件

※：食品安全基本法第24条第3項に基づく意見聴取案件

■：食品安全基本法第24条第1項に基づく意見聴取案件かつ企業申請案件（平成22年1月1日以降委員会において説明したもののみ）

◎：食品安全基本法第23条第1項第2号による自ら評価案件

IV その他

通知日	通知先	件名
2004/1/30	厚・農・環	遺伝子組換え食品（種子植物）の安全性評価基準 遺伝子組換え植物の掛け合わせについての安全性評価の考え方
2004/3/18	農	普通肥料の公定規格に関する食品健康影響評価の考え方
2004/3/25	厚・農・環	遺伝子組換え微生物を利用して製造された添加物の安全性評価基準
2004/5/6	厚・農・環	遺伝子組換え飼料及び飼料添加物の安全性評価の考え方
2004/8/5	厚・農	特定保健用食品の安全性評価に関する基本的考え方
2004/9/30	農	家畜等への抗菌性物質の使用により選択される薬剤耐性菌の食品健康影響に関する評価指針
2005/4/28	厚・農・環	遺伝子組換え微生物を利用して製造された添加物のうち、アミノ酸等の最終産物が高度に精製された非タンパク質性添加物の安全性評価の考え方
2006/6/29	厚・農	暫定基準が設定された農薬等の食品健康影響評価の実施手順
2007/9/13	厚・農	食品により媒介される微生物に関する食品健康影響評価指針（暫定版）
2008/6/26	厚・農・環	遺伝子組換え食品（微生物）の安全性評価基準
2010/5/27	厚	添加物に関する食品健康影響評価指針
2016/5/17	厚	香料に関する食品健康影響評価指針
2017/7/18	厚	添加物に関する食品健康影響評価指針（改正） 栄養成分関連添加物に関する食品健康影響評価指針 添加物（酵素）に関する食品健康影響評価指針
2018/4/10	厚・農	動物用医薬品に関する食品健康影響評価指針
2018/9/25	厚・農	飼料添加物に関する食品健康影響評価指針 動物用医薬品に関する食品健康影響評価指針（改訂）
2019/5/28	厚	食品用器具及び容器包装に関する食品健康影響評価指針
2019/10/1	厚・農	残留農薬に関する食品健康影響評価指針
2019/10/29	厚・農	食品健康影響評価におけるベンチマークドーズ法の活用に関する指針
2019/11/13	厚・農	遺伝子組換え植物の掛け合わせについての安全性評価の考え方
2020/3/24	厚・農	食品安全委員会専門調査会等運営規定 改正
2020/6/16	厚・農	残留農薬の食品健康影響評価におけるコリンエステラーゼ阻害作用を有する農薬の取扱いについて
2020/7/7	厚・農	暫定基準が設定された動物用医薬品及び飼料添加物に係る食品健康影響評価の考え方について
2020/10/6	厚	食品用器具及び容器包装に関する食品健康影響評価指針（改訂）
2021/4/6	厚・農	残留農薬に関する食品健康影響評価指針（改訂）
2021/5/18	厚・農	飼料添加物に関する食品健康影響評価指針
2021/9/29	厚	添加物に関する食品健康影響評価指針（改正） 香料に関する食品健康影響評価指針（改正） 添加物（酵素）に関する食品健康影響評価指針（改正） 栄養成分関連添加物に関する食品健康影響評価指針（改正）
2022/3/22	農	家畜等への抗菌性物質の使用により選択される薬剤耐性菌の食品健康影響に関する評価指針の一部改正 食品を介してヒトの健康に影響を及ぼす細菌に対する抗菌性物質の重要度のランク付けについての一部改正
2022/6/21	厚・農	食品により媒介される微生物等に関する食品健康影響評価指針（改正）
2023/9/12	厚・農	食品健康影響評価におけるベンチマークドーズ法の活用に関する指針〔動物試験で得られた用量反応データへの適用〕（改正）